

新駅の設置による効果

① 新駅周辺における交通利便性の向上

- ・新駅が構想されている地区の周辺では、他の鉄道駅へのアクセス性が低い地区が多く、「H29 江南区公共交通利用状況調査」や「JR 調査」による推計では、約 2,100 人の利用者（乗降客数では約 4,200 人）が見込まれている。
- ・このため、新駅を経由した新潟市中心部へのアクセス性の向上など、周辺地区住民にとっての交通利便性が向上することが見込まれる。

② 公共交通への利用転換による環境改善と持続可能な公共交通の実現

- ・鉄道の利便性が向上することで、自動車からの交通手段の転換が図られ、自動車交通の削減による混雑の緩和や環境負荷の低減が見込まれる。
- ・また、新駅設置に伴い、駅を中心としたバス路線の再編やパークアンドライド駐車場の整備等により、公共交通主体のまちづくりへの転換が期待でき、区バス・住民バスなどの活性化による持続可能な公共交通の構築にも寄与できる。

③ 交通結節点としての機能強化と交流人口の拡大、周辺地区開発の誘発

- ・新駅は、現在整備が進められている新潟中央環状道路との結節点に位置しており、鉄道のみならず、バスや自動車による広域からのアクセス性も飛躍的に向上することが見込まれる。
- ・これにより、広域への移動時間の短縮に伴う利便性が向上し、広域からの来訪者の往来が期待できる。
- ・これらの交通利便性と併せて、市街地に近接する一方で田園環境に囲まれているという当地区の恵まれた立地特性を活かし、本市が抱えるまちづくりの課題を解決するための適地として、新たな拠点開発等による機能強化が期待できる。

④ 拠点開発等に伴う地域活性化

- ・上述のとおり、新駅周辺地区に交通結節点としての拠点機能を持たせることで、新たな雇用の場の創出や地域経済の発展にも貢献するものと考えられる。
- ・これにより、定住人口や交流人口の増加、事業所の増加、地価の上昇、税収の増加など、当該地域のみならず、新潟市の活性化へつながることが期待できる。

⑤ 既存交通ストックの活用による各種コストの削減

- ・駅建設のインシヤルコストは必要となるが、ランニングコスト（保線、信通、車両、人員等）は全て JR が賄うこととなり、駅設置後の鉄道側への公共負担は原則ゼロで市民の足が確保できるため、他の公共交通機関よりも有利と言える。（ただし、駅前広場、道路関連施設等の維持管理等は公共側）